

令和6年度 自己評価結果報告書

幼保連携型認定こども園 旭学園第二幼稚園

1. 本園の教育方針

きめ細かな保育を通して、子どもが安心感と信頼感を持って様々な活動に主体的に取り組めるようにする。そしてメリハリのある教育を通して、遊び(運動)と学びをバランスよく行い、健康明朗な子どもを育成する。

○して良いことと悪いことの区別をつける

○人の嫌がることはしない

○思いやりや譲り合いの気持ちを持つ

2. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検・評価を実施することにより、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点目標とする。

3. 評価項目と取組状況

A: 十分達成されている
B: 達成されている
C: 取組まれているが、成果が十分でない
D: 取組みが不十分である

自己評価項目	評価	取組み状況
[教育方針・目標] 園の教育方針や目標について、教職員の間で話し合い、理解を深めている	B	・カリキュラム会議を毎月行い、意見交換、意識の共有を図っている。 ・意見しやすい環境を整える。
[全体的な計画の理解] 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく全体的な計画を理解し保育を行っている。	B	・全体的な計画、年間計画の理解を深めた上で保育を行っている。 ・全体での認識の場を持つ。
[指導計画の作成と評価] 日々の指導計画を作成し、終礼などで話し合い、評価反省をして次の保育に生かしている。	B	・日案、週案、月案を作成し、学年での話し合いを行っている。 ・期限内での提出が必要。
[教職員同士の協力・連携] 園児のことについて教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	B	・クラス間での話し合いや学年主任への報告、相談を行い、情報共有している。 ・他学年との情報共有は、より必要と感じる。

自己評価項目	評価	取り組み状況
【園で重点的に進めている保育の充実】 園で進めている幼児漢字教育・ピアジェ教材の保育・体操などの保育を継続的に行い、充実させている。	B	・カリキュラムに従い、毎月実践指導している。 ・ついていくのが大変な子どもへの配慮も必要と感じる。
【危険防止の意識・安全管理体制の整備】 危険防止の意識を常に持つ。また緊急時の対応手順について、全教職員が共通理解をもち対応できる体制にある。	A	・月1回、避難訓練を実施 ・門番の配置・来園者確認・防犯訓練の実施 ・安全点検と危険箇所の確認 ・AEDの導入
【保護者との協力・連携】 保育参観や懇談会などを開き、子供の成長や保育、家庭の様子などの意見交換をしている。	B	・年3回の保育参観、年1回のクラス懇談会、個人懇談、家庭への電話連絡を行っている。
【園児一人一人の習得度に応じた指導の充実】 園児一人一人の習得度や特性を見極め、個別指導などで習得度を高めている。	B	・個別指導も行い、その園児に合わせた声掛け、指導を行っている。 ・補助の先生の配置を行っている。
【研修への取り組み】 教職員の育成の場として、園内、園外研修が計画的に実施されている。	B	・オンライン研修を複数行った。 ・園内での保育内容の確認。
【食育の充実】 食育に取り組み、園児の食生活や食物に対する知識を充実させている。	B	・夏野菜を育て、収穫した。 ・絵本などを用いた食育活動。 ・月1回の郷土料理の給食。

4. 総合的な評価結果

結果	理由
B	3. の結果を平均化した。Bが多く、十分達成されるようさらなる向上が求められる。

5. 今後取り組むべき課題

- 現在求められているこども園の在り方をふまえた保育の一部見直し。
- 全体的な意見交換の場を増やす。
- 保育者一人一人のスキルアップと、そのスキルの保育への実践。

【施設関係者評価】

- 評価項目について、幼児教育における重要なポイントをしっかり押さえられている。
- 教職員同士の協力・連携について、教育時間のみならず、その後の保育時間についても、同じような情報共有をお願いしたい。
- 日々の保育・教育の様子から先生方の熱心さが伝わっている。
課題として挙げられたスキルアップによりさらに充実した保育・教育がなされることを期待している。